



▲文部科学大臣奨励賞を受ける宇野颯人くん

第36回「お話を絵にする」コンクール(京都新聞社主催)で、南丹市立殿田小学校2年生の宇野颯人^{はやと}くんの「めざめのもりのいちだいじ」が文部科学大臣奨励賞に輝きました。同コンクールは園児や児童を対象に、選定読書を読んだ感想を自由に絵で表現してもらうもので、京都府・滋賀県などから約13万点の応募があり、1月28日に京都新聞文化ホールで表彰式が行われました。

「お話を絵にする」コンクールで入賞

(「お話を絵にする」コンクール・日吉町)

南丹市園部公民館で、園部町文化協会(高木茂会長)主催の「かるた大会」が開かれ、市内の子どもからお年寄りまで約50人が参加しました。日本の古典文学の「小倉百人一首」に触れ、市民の交流の機会になればと毎年開かれており、今年で16回を迎えました。

大会は3人1組のチーム同士による「源平」方式で対戦し、初心者から、上の句が読まれただけで札を取る上級者までが熱戦を繰り広げました。



▲「どこにあるのかなー」

「小倉百人一首で楽しく交流」

(2/3・園部町文化協会「かるた大会」・園部町)

「出展作品をとおして地域の交流を図る」

(2/17、18・きさらぎフェア・園部町)



▲趣向を凝らした作品が並びました

南丹市国際交流会館で南丹市婦人会園部支部による「きさらぎフェア」が開催されました。今回で24回目となるこのイベントは、今回から南丹市婦人会の行事として取り組まれ、園部地域内の婦人会各支部で作られたぬいぐるみやパッチワーク、服をリサイクルして作った小物などが展示されたほか、八木、日吉、美山の各婦人会支部からも出展があり、およそ300点の作品が展示され、市内から多くの人々が来場しました。

「全国書道コンクールに姉弟で入賞」

(JA共済全国小・中学生書道コンクール・園部町)

全国共済農業協同組合連合会が主催する「第50回JA共済全国小・中学生書道コンクール」が行われ、全国から約127万人の小・中学生が応募した作品の中から、南丹市立園部中学校3年の田中斐子^{あやこ}さんが書いた「松風水月」が、半紙の部で文部科学大臣奨励賞を受賞しました。また、南丹市立園部小学校6年の田中希佳^{きよし}くんが書いた「白梅の里」が同コンクール半紙の部で佳作を受賞しました。2月2日に東京都内で行われた表彰式には姉弟で出席し、表彰されました。



▲表彰を受けた田中斐子さん(右)と希佳くん(左)